

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102352		
法人名	有限会社 高木ライフ企画		
事業所名	グループホームさんあい		
所在地	宮崎市老松1丁目6番19号		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	平成22年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570102352&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々おひとりおひとりの生活歴の重さを知り、理解し、人生の先輩として敬意を払いながら、人間として共感できる介護職をめざしている。
1人1人の生涯は、かけがえのないもので、他人がそれを代行することはできません。そして等しく死を迎えます。今日一日を精一杯1回きりの時を共に生きていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは宮崎市の市街地の中にあり、周りは住宅やマンションに囲まれた静かな環境の中にある。職員は利用者の生きてきた人生をできる限り尊重し、利用者の望むこと、必要とされている気持ちを大切にしながら、家族のように常に寄り添ったケアを実践している。また、地域とのつながりを最も大事に考えており、災害の際の協力を仰いでいる。若い職員は上司を信頼し、次なるステップを目指し、意欲をもって日々のケアに当たっている。ホームは清潔が保たれ不快な光や音も無く、利用者は職員の笑顔のある支援の下でゆったりと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年と変わらず地域の中で、暮らし続けるよう理念をかがけている	家族であるという気持で、利用者の意向に添った介護をするという理念を意識しながら日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームだよりを発行し、回覧板の中に入れて配布している	散歩の時など、近隣の方々とあいさつや言葉を交わし、ふれあいサロンに参加するなど、交流を深めている。また、災害時に自宅の庭を避難場所として提供する申し出があるなど、近隣との深いつながりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入している 「宮田区ふれあいサロン」に参加し、地域の方々に認知症への理解を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの火災等、すぐに対応して、推進会議を開催している	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議では評価の結果や、災害時の地域との連携について等、多数の意見や助言をもらい、会議を生かした取り組みがある。	前回の運営推進会議で出された議題や意見について、次のステップにつなげる取り組みや、進捗状況の具体的な報告をし、さらに運営に反映させる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、本部長が宮崎市役所を訪問。質の向上に取り組んでいる	事業所の本部長が随時担当課へ顔を出し、事業所の近況報告や、相談など連携を図っている。また、市の担当からの情報は管理者が職員のミーティング時に報告を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ全員が知っており、現在身体拘束はしていない	身体拘束の弊害についてはスタッフ全員が理解し、ケアを実践している。しかし、事業所の建物が道路に面しており、事故防止のため、玄関の施錠をやむなくしている。	利用者の安全確保を図りながら、施錠をしないケアの取り組みが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフは、常に互いの介護について検証を行い、より良い介護をめざしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」のパンフレット等で利用者家族に説明している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットと重要事項説明書に詳細が明示しており、十分説明した上で、利用者家族の了解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談や苦情の窓口として、ホーム担当者、電話番号、時間、投書等を明示している	玄関に意見箱を設置したり、来訪時に家族の意見や要望を気軽に話し合える環境作りがされているが、家族の訪問が少なく、運営の反映にはつながっていない。	今後、家族会を作る方向にあり、家族からの意見や要望を取り入れ、家族の訪問が気軽に出来る機会を作り、運営の反映につなげる工夫がほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、管理者、スタッフ間で全体会議を行い、意見提案を聞く機会を設けている	管理者は常に職員とコミュニケーションを図り、職員の話に耳を傾け、職員が生き生きと業務に専念できる配慮が見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、手当等配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間内での介護教室、研修会の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ入会 交流を深め、サービスの質の向上させる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方が困っていること、不安、要望をその都度傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望、困っている事を受け止め、対処している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族がまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用もお示している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々を、人生の大先輩として、昔の出来事等を傾聴し、共感しあえるように日々努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ささいな事でも、ご家族に連絡、現状を知っていただき、絆の大切さを共有していただく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方にそれとなく、馴染みの人や場所をお尋ねする	時折友人の来訪があり、また、なじみのお店に買物に出かける等、なじみの人や場とのつながりを継続していく支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が、1階の方が2階へ、2階の方が1階へと訪問したり、全員で食事をしたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安否確認等、電話連絡し、ご相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常々、利用者の方々のなにげない会話を記録している	利用時の面談や家族の来訪時を通じて、本人のこれまでの生活歴や暮らし方を聞いたり、利用者のささいな行動や表情などを見逃さないようにし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、友人、ご本人の話など、その折々収集し、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活習慣、趣味、関心を示される事柄の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、スタッフ等カンファレンス話し合いによって作成している	介護計画は、日々のかかわりの中で利用者、家族の要望等を聞き、その人らしく暮らせるように全職員で検討している。また、ホーム独自の方式でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、日々の様子、会議内容、排泄、食事、水分量のチェック身体状況も記載している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内のデイサービス、グループホームとの交流、互いに行事に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカ、歌謡のボランティアの方々との交流がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高木内科・胃腸科又は、主治医に相談している	ほとんどの利用者が従来の掛かりつけ医で受診している。また、定期的に事業所関連の医療機関からの往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフが常時支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に出向いて、情報交換や相談に努め、連絡を密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高木内科・胃腸科又は、主治医、ご家族の方々と常時連絡を取り合っている	事業所は、重度化や終末期のあり方について、利用開始時に本人や家族に説明をしている。利用者の状況や希望に沿って、できるだけ支援は行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは、応急手当や初期対応について、その都度実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に利用者が避難できる方法を全スタッフが身に付け、地域との協力体制もついている	防災訓練、災害訓練は消防署の指導を受け年2回実施している。地域の方々とも連携を図り、敏速な連絡が取れるような協力体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは守秘義務を心得ており、それぞれの利用者の方に応じた言葉かけをしている	利用者一人ひとりの誇りや人格を損ねることの無いよう細心の配慮をしている。特にトイレの誘導については、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者の方の思い希望を表せるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方は、その日の気分によって、過ごし方が異なることがある。 1つ1つ確認しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望にあわせて、カット・パーマ・髪染め・顔剃りを行っている 2ヶ月に1回なじみの理美容師が来訪する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜、果物等、利用者に触れていただき、味見、配膳、食器洗い、台拭きとその場に応じて役割を持って行っている	旬の食材を取り入れ、季節に取れる食材の調理法などを話しながら食事をとっている。調理、準備、後片づけなどは個人の能力に応じて職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ごはん、おかずのおかわり等、利用者の希望に沿っている。水分補給の飲み物は、利用者の方に選択していただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは、高木歯科医院とも連携して、それぞれに応じた利用者の方々の支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じ、さりげなく声かけをして、トイレに誘導している	職員は利用者一人ひとりの様子をきめ細かく観察、見守りながらさりげない声かけをし、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高木内科・胃腸科とも連絡を密にし、それぞれに応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて、ゆったりと気持ちよく入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は週3日と決まっている。時には職員と一緒に歌をうたったり、会話をしながらゆったりした気分を味わうことの出来る支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠状況に応じて、ドライブ、買い物、散歩に連れ出し、安眠ができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている主治医とも連絡を密にして、症状の変化を確認した場合は、適切に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴、力を活かして得意な分野で役割をしていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昼食後、午後の時間を、ドライブ、散歩の時間にあてている	利用者のその日の体調や天候に合わせ、ホーム周辺の散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が買いたい物を、お金で買う楽しみ の機会をそれぞれに応じて行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の要望に応じて、取り継ぎをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、テーブル、トイレ等、普通の家族の調度品を使用している	家具や調度品も特別なものではなく、民家をそのまま利用しての事業所であり、利用者は家庭で過ごしているような実感が感じられる空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者の方々同士で、互いに訪問し合ったり、ホールソファに座って雑談したりする		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方、家族と相談しながら、なじみの品を季節に応じて持参していただいている	各室ともその方らしく、落ち着いてゆっくり暮らせる居室になっている。それぞれに愛着あるもので飾られている部屋もあるなかで、家具や好みの物がなく、とても寂しさを感じさせる部屋がある。	使い慣れた家具や好みの物が無く、寂しさを感じる。家族の方と話し合い、利用者の好みや要望を取り入れ、居心地良く過ごせる工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人ひとりの力を低いレベルから推し量って、混乱や失敗を防ぎ、恥をかかせないよう配慮している		